

会 議 議 事 録

1 会議名	平成27年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	平成28年3月18日（金曜日） 午後4時から午後5時30分まで
3 開催場所	シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3階 第1協働ルーム
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>恩田委員 上村委員 河村委員 佐竹委員 樋口委員 山村委員 渡辺委員 綿貫委員</p> <p>(事務局)</p> <p>磯田副市長（市長代理出席） 市民協働推進室 山崎室長 柳島市民交流・アオーレ調整担当課長 小池市民協働担当課長 上村市民協働推進担当課長補佐 桜井市民交流担当係長 五十嵐アオーレ調整担当係長 目黒市民協働担当係長</p>
5 欠席者名	澤田委員 田中委員
6 議題	<p>これからの市民協働推進の方向性について</p> <p>○ これまでの取り組みについて</p> <p>○ これからの市民協働推進の方向性について</p>
7 審議結果の概要	議題について事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。
8 審議の内容	
磯田副市長	<p>1 開会</p> <p>・磯田副市長よりあいさつ</p> <p>平成24年に市民協働センターがオープンして4年が経過し、センターへの相談件数が倍増し、NPO法人や市民活動の数も増えて、長岡の市民活動が盛んになってきている。また、アオーレは市民の活動のしやすい環境の提供や、市民を巻き込んだ活用の仕方などが高い評価をいただいている。</p>

	<p>28年度は、このような盛り上がりや市民協働の仕組みが長岡若返り戦略の起爆剤として、「ながおか若者しごと機構」の成功につながっていけばいいと考えている。</p> <p>そういう意味では、28年度は市民協働の新たな出発の年だと考えており、これまでの経緯も踏まえて、委員の皆さんからご意見をいただきたい。</p> <p>(磯田副市長退席)</p>
事務局	<p>2 議題</p> <p>ここからの議事については、樋口会長に進行をお願いします。</p>
会長	<p>それでは、まず事務局から議題について説明していただき、その後意見交換において委員の皆さんから議論をしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>これからの市民協働推進の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1～4に基づいて、事務局より説明 ・意見交換（以下、発言の要旨）
委員	<p>市民活動と産業界・企業がどのように関わっていくかというのは、非常に大きなテーマになっていて、公益的な事業や地域の活性化に取り組む具体的な方法は何か模索しているところ。</p> <p>アオーレについては、長岡市民の財産ではあるが、中越地区にとっても大きな核ではないかと思っており、中越地区の住民にも幅を広げたような活用方針があると、長岡の中心市街地をもっと展開できるんじゃないかと思う。</p>
委員	<p>近年、市民活動をするために比較的設立が簡単でNPO法人より縛りが緩い社団法人を作る団体があるので、今後は社団法人数の推移を把握する必要があるかもしれない。</p> <p>資料4の「市民協働センターのプラットフォーム機能」について。左図の輪の中にマスコミを入れていただきたい。公共性を有する活動をする場合に、必ず広報が必要になる。特に、広域で認知してもらうような場合には、テレビ・ラジオ・新聞の力が必要になる。新聞などにおいて、取材という形で掲載していただくという方法がよく取られる。</p>

委員	<p>資料2の「これからの方向性について」。右図②への支援として、資金の確保だけではなく、④に近づけるような専門性や特性を見つけて、ブラッシュアップを促す必要があると考える。併せて、専門的な知識や技術などを持っている企業の集まりである協会や組合などの企業体との連携を支援することによって、新たな価値が見出されてくると考える。</p> <p>アオーレができてからの4年間、資金的な補助や相談機能の充実により、市民が実際に動く形としては非常によくなってきているし、これを継続していけば、長岡の協働はある程度うまくいくと思う。これからは、アオーレで成功したこととイコールのものが、支所地域にも波及して「オール長岡」としてよかったねという方向に行く協働がなければならない。</p> <p>支所地域を見てみると、アオーレができた当初は華々しくて活性化したように見えていた地域も、今は地域の方向性をどのように見出すか悩んだり、疲弊したりしているのが現実じゃないかと思う。その悩みを解決するためのヒントとして、コミュニティデザインの専門家の力を借りることも必要ではないか。地域としての方向性がまとまっていけば、既に形ができているアオーレとリンクさせて、オール長岡としての1つの方向性が出来てくると思う。</p>
委員	<p>成果として表れている数字の推移や変化の裏側で、一番大きな力になっているのは人。1年目ではなかなかうまく出来なかった部分が、いろいろなことを蓄積した結果、うまく市民の力をつなげることができて、形にしていくことができた結果であり、スタッフ力の向上は長岡の大きな力としてもっと評価されるべきである。</p> <p>支所地域の課題は、以前からも言われていたことだが、来年度から市民協働と一緒にまちなかキャンパスが栃尾分校を開校するなど試験的な取り組みをしているので、そういったところから変わっていくのではないかと期待している。</p> <p>補助金の審査をしている立場としては、これからの方向性の中に、自立を促す支援を入れていただいたのはありがたいと思う。</p>
委員	<p>市民協働条例ができて、協働センターなどができて、挙げていただいたような成果が出ていることを評価した上で、やはり反省と改善をしていかなければならない。成果だけではなく、問題点や課題を明記して、審議会で知恵を出し合うというのが基本になると思う。</p>

資料2について。補助金交付実績は、リピート率よりも新規利用率を先に出して、次々と新しい人たちがチャレンジしているということをまずうたうべき。NPO法人数のグラフは、立ち上がりが遅かったけれども新潟市に近づいてきていること、人口比でいえばまだ新潟市に全然追いついていないというデータにして見せるべき。

資料3について。アオーレの素晴らしさだけではなく、周辺も本当に盛り上がっているのかどうか、アオーレ以外でももっと市民活動をやってほしいということを出さないと、次の議論につながらないのではないか。

資料4について。先ほど輪の中にマスコミを入れてほしいという話があったが、本当にそれは大事なこと。言葉としては、「マスコミ」よりも「メディア」の方がいいと思う。

本日の議論の一番大事なところがこれからの方向性だと思うが、双方向性・社会性・戦略性の3点でまとめられると思っている。

「双方向性」というのは、例えば資料1左下に社会貢献活動とあるが、社会貢献という言葉に一方通行な印象を持っている。もっと積極的に例えば「社会経営」というと、1つのセクターが1つのポジションを持って1つの社会を経営していくということに対して、NPOなどいろんな人たちが参画しているとすると、双方向性が出てくる。それから、資料4の左側の図は、双方向の矢印が全部ついているが、今まではどちらかという下支え的な意味で、市民協働センター側からの矢印の方が強かった。これからは、市民活動団体を使っちゃうとか、もっと積極的に逆側の矢印を考えてもいいという気がする。更に、事業者のところの矢印が、現状はものすごく細いので、ここを太くするというのも、双方向で何とかできないかと思う。

「社会性」というのは、市民協働という概念がカバーする範囲を非営利・公益・非行政の3つで定義して、その範囲でソーシャルの議論をしていけばいいのではないかということ。資金的自立の話が出ているが、NPOだろうと社団法人だろうと、仕事としてやる以上最後はどうやって食っていくかという話になる。市民活動の延長で、これを生業としてやりたいという人が出てきたときに、ソーシャルビジネスとして発展していくというのは、1つのすごくいい道筋である。ソーシャルビジネスへの展開というところの情報提供や専門家のアドバイス、ネットワークやモデルといったキーワードを絡めたサポートが次のステージになると思う。一方で、ビジネス側のソーシャルというのもある。ずいぶん前からCSRや、今ではCSVという言葉が使われている。自分たちのビジネスが持続するには、社会とともに発展し

	<p>なくてはいけないというのはもう当たり前になっており、企業側も社会の発展に寄与したいという意識はあるが、具体的に何したらいいかわからないところがある。あるいは、リソースとして金なのか、人なのか、知恵なのか、何を提供できるのかわからない。だから、次のステージでは、そういう思いを持つ企業と市民活動をつないでいくというアプローチが考えられる。次の方向性として、CSR・CSVを入れてしまえば、企業側も入りやすくなると思う。</p> <p>「戦略性」について。次期総合計画に「広聴活動の充実」があるが、市民協働センターに寄せられる何百人もの相談や補助金の申請などは、具体的に相談に行くしかないという状況に陥っているまさに市民の声であり、広聴活動の1つのチャンネルとして市民協働の窓口を明確に位置付けるべき。そうしたときに、これからの方向性にある「補助金の継続枠」に対しては、活動の継続の必要性を市役所が認識しているのであれば、市民協働の枠組みで継続を支援するのではなく、しかるべき部署がちゃんと予算を取るべきだという意味で、若干の違和感がある。ただ、行政施策に反映されるまでの期間というニュアンスでの継続枠であれば賛成。また、資料4のフルマラソンも、主体になるというより、熱い思いの市民をしっかり支えながら市役所の中で押し付け合いにならないようなサポートをする調整役という意味で、この事例が出てきたことはすごくいいことなので、戦略性を持ってこういうチャレンジをしてほしい。</p>
委員	<p>アオーレができる前は、いろいろな不安の声が市民から聞こえていたが、実際は常時ここを通りかかると賑やかで、いろいろなところから視察に来ていただいたりしていることも含めて大成功だったんだろうと思う。逆に、大成功だったからこそ、その恩恵を受けなかった人たちの欲求不満のようなものが見え隠れする。これからは、アオーレ周辺だけにならず、そういった人たちを取り込んでいって、一緒になってやっていこうというところを上手にやっていかないと、もったいないと感じる。</p>
委員	<p>先ほどあったように、これだけの活動があって人が育ったということをもまず成果のところで言ってほしい。</p> <p>基本的に市民活動は、それぞれの思いでそれぞれのやり方でやるべきものだと思っている。しかし、資料4のフルマラソンの事例のように大きなものになるとそうはいかず、やりたい人たちと関係団体とのいろいろな調整が必要となる。そうすると、行政はいろいろなことを</p>

委員	<p>サポートしていく方向性を打ち出しているが、1つはそれぞれの思い・やり方を大切にす方向と、大きなものはどう価値観や手法の違いを調整していくのかという問題があつて、そう簡単には整理できないだろうと思っている。</p> <p>先ほどのソーシャルビジネスの話はすごく大切に、市民協働が地方創生やながおか若者しごと機構と連携する中の1つに、起業支援があると思う。今、NPOがいろいろな思いつきでとりあえずできることはやっけていて、その継続がすごく大切だとなつたとき、1つは行政が引き受ける方法と、もう1つはビジネスとしてやっけていく方法がある。特に、ビジネスを発想することは若い人に多いと思うので、そういう若い人たちの思いや、世の中で必要とされていることをビジネスでやりたいという思いがあるなら、多少ひいきしても起業支援の一環でちゃんとやっけていくべきだと考える。大企業の方でなければできないようなことの部分的なものであっても、それで動き出したいという強い思いがある人であれば、是非支援してほしい。このことを相当意識してやっけていくことが、長岡らしきにつながるのではないかと思う。</p> <p>市民協働条例やアオーレができて、これまで市民の立場・行政の立場での市民協働の捉え方が、非常に緩かつたことをすごく心配していたが、年数がたち活動を重ねていく中からようやくその課題が明確になつてきて、今後の方向性が見出されてきたというところにもものすごく価値があると感じている。</p> <p>先ほど、非営利・公益・非行政という話があつた中で、特に非営利の意味を取り違えてNPO法人を設立したり活動したりしている人がいると思っている。ある種、ビジネスに似た形で収益性を求めて、それを新たな活動資金にしたり雇用を生んだりするというのは当然あるわけだが、非営利といったときに収益を求めてはいけなかつたか、全くのボランティア活動なんだという間違った考えで進んでいることを危惧していた。次につながる活動をしているわけだから、活動の中で収益が出ていいし、雇用に結びつけてもいいわけで、最終的にはビジネス展開していくようなところに持つていくことがある種の理想だと思う。そうでなければ事業が継続できなかつたし、活動の中で仕事としての生業に結びつけていけなかつた限り、活動の場を持てなくなつてきている。</p> <p>そういった市民協働の位置づけの浸透には、まだまだ時間が必要だと思つたので、緩い部分も必要。だが、こうして課題を見つて次の方向性を見出したことに関しては非常に成果があつたことだし、方向性に沿つてそういう人たちをサポートしていくところが、今後必</p>
----	---

	<p>要になってくるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>活発な意見交換となりました。これで議事を終了いたします。議事の進行にご協力いただきありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。最後に、市民協働推進室長からごあいさつ申し上げます。</p>
<p>市民協働推進室長</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、市民活動には緩い部分が実際にあって、市民活動を広く浅く支えるという緩い部分は絶対に必要だろうと考えている。そういう支援は、長岡市はそれなりにできてきたんだろうと思っている。</p> <p>今後は、若者などが起業するというものに対して、誰がどうやって応援するのか、そういうことを行政の立場ではどう捉えていくのかっていうのが大きな課題で、ながおか若者しごと機構が今後きっちりと応援していきたくらうし、市民協働の緩く応援する部分のその上にいろいろなものが伸びてくるんじゃないかという気がしている。</p> <p>行政側には、我々だけではなくいろいろな部署があるわけで、継続枠の話があったが、担当部署が行政の政策課題と一致するものであれば、どんどんと応援してほしいというものが実際にある。そういうことをこれからやっていかなければならないと思っているので、中身を具体的にしていきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。みなさまありがとうございました。</p> <p>(閉 会)</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 これからの市民協働推進の方向性 ・資料2 「市民活動がしやすい環境づくり」これまでの成果まとめ ・資料3 アオーレオープンから4年の軌跡 ・資料4 「高い組織力と実績を有する活動」の支援イメージ ・長岡市総合計画（原案） 	